

スピーカーアキュライザーの活用(9)

—TANNOY Autograph MINI—

1. 始めに

前報(8)に引き続き、追加購入のスピーカーアキュライザーをサブシステムに使用していきます。

2. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴計画

今回は、サブシステムのうち、TANNOY Autograph MINI に適用してみます。

TANNOY Autograph MINI の設置状況は、サブシステムの再構成(11)とサブシステムの再構成(13)で報告しています。

スピーカーリベラメンテ 5m 長を使用し、スピーカーアキュライザーにバナナプラグで接続し、スピーカーアキュライザーからバナナプラグ経由で TANNOY Autograph MINI に接続します。

音源は、スピーカーアキュライザーの活用(2)からスピーカーアキュライザーの活用(6)で使用した各種音源から一つずつ選択します。

アナログ

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein (Vn)

CD

Hyperion CDA67993

ウジェーヌ・イザイ 無伴奏ヴァイオリンソナタ 1 番～6 番

アリーナ・イブラギモヴァ(ヴァイオリン)

ハイレゾファイル音源

Universal Music UCCG-40074(MQACD)

ドボルザーク 交響曲 8 番・9 番

ラファエル・クーベリック指揮ベルリンフィル

ベルリンフィルデジタルコンサートホール

グスタフ・マーラー 交響曲 3 番

ロレンツォ・ヴィオッティ指揮ベルリンフィル

STAGE+

ベートーヴェン ピアノソナタ 30 番 31 番 32 番

マウリツィオ・ポリーニ (ピアノ)

3. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴結果

駆動アンプは、前報(7)と同様、Pilotone Tungsol 5881pp とします。CDの再生は、前報(7)と同様、下記の経路としています。

EMT981(*)→CRV-555(*)→DAC-1→TruPhase

*GPS-777よりクロック入力

アナログのバッハの **Sonatas & Partitas** は、ミルシュテインの艶のあるボウイングが遺憾なく表現されており、もっともタンノイらしさが生きています。

CDのイザイの無伴奏ヴァイオリンソナタは、これもCD臭さがなく、再生の難しいこの曲に対して十分な表現ができています。

ハイレゾファイル音源(MQACD)のドボルザークの交響曲8番・9番は、サイズのオーケストラの再生は困難なところがありますが、弦や木管などの質感は出ています。

ベルリンフィルデジタルコンサートホールのマーラーの交響曲3番は、サイズ的に低音までのバランスは取りにくいところがありますが、弦や木管などの質感は出ています。

STAGE+のベートーヴェンのピアノソナタは、サイズ的に低音がこもりがちで、バランスは取りにくいところがあり、こぢんまりとした表現になります。

4. まとめ

サイズ的に低音までのバランスは取りにくいところがあり、大編成ものでは苦しいところがありますが、ヴァイオリンのソロでは、独特の魅力があります。

以上